

富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 運営会議の概要

(1) 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項の調査研究

(2) 審議事項

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項

(3) 委員名簿（五十音順）

伊藤勢津子（県民カレッジ友の会「雷鳥会」副会長）

奥野 達夫（南砺市立福光美術館長、砺波地区センター運営会議会長）

尾山 敦子（県民カレッジ自遊塾県民教授）

黒田 卓（富山大学人間発達科学部教授）

佐藤 登（県経営者協会専務理事）

立浪 勝（富山大学芸術文化部教授、高岡地区センター運営会議会長）

道古 正子（公募委員）

中西 彰（県生涯学習団体協議会会長）

中村 啓志（県公民館連合会事務局長）

藤田公仁子（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授、富山地区センター運営会議会長）

武藤 憲夫（富山国際大学子ども育成学部教授、新川地区センター運営会議会長）

結城 正斉（射水市教育長）

横澤千鶴子（県婦人会事務局長）

2 これまで開催した会議の概要

◇平成 25 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議

(1) 開催日時 平成 26 年 2 月 20 日（木）10:00～12:00

(2) 開催場所 富山県教育文化会館 4 階 403 号室

(3) 議 題

【報告事項】

③ 平成 25 年度事業について

② 富山地区センターの事業概要について

③ 各地区センター運営会議での審議状況について

【協議事項】

① 平成 26 年度事業計画について

(4)会議資料

・平成 25 年度事業について

・平成 26 年度事業計画について

平成 25 年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議 議事概要

- 1 日 時 平成 26 年 2 月 20 日 (木) 10:00~12:00
- 2 場 所 富山県教育文化会館 4 階 403 号室
- 3 議事等 内容は概ね以下のとおり

(学長挨拶)

委員の皆様には、日頃より県民カレッジの事業に対して、ご支援をたまり誠ありがとうございます。今年度の最も大きな事業として富山地区センターの開所があげられます。県内 4 地区の県民の皆様へ生涯学習に関するきめ細かなサービスを提供することや、雄峰高校が手狭で生徒たちの学習環境を整えたいとの要望に応じて雄峰高校が移転改築され、併せて富山地区センターが新設されたことをうれしく思います。生涯学習校では、学校教育と生涯学習とのコラボレーションと学校教育のマンパワーを、生涯学習に生かしていくというねらいの基に運営されています。

来年度に向けての課題として、受講者皆さんの高齢化があげられます。県民カレッジでは、60 代のリピーターの方が、やがて 70 代、80 代になって、新たに 50 代、60 代の方に受講していただけない状況です。同じような悩みを市町村も抱えているようです。本日の資料のリーフレットは、県民カレッジの事業内容を一目で分かるようにコンパクトにまとめることで、県民の皆様幅広くお伝えして、気軽に来ていただけるよう作成しました。また、ホームページの「とやま学遊ネット」には、いろんな情報が載っていることをお伝えしたいと考えています。今回は、このリーフレットを、退職教員の方々に 7,700 部配布しました。さらに、今後いろいろな企業の OB 会にも配布したいとも考えています。案外県民カレッジについてご存じない方が多い実態が分かり、より一層の広報活動を進めていくことが必要であると考えています。

本日は、平成 25 年度の事業や富山地区センターの事業概要、各地区センターの状況、新年度予算・新規事業等について、忌憚のないご意見をお伺いしたいと存じます。

事務局から出席委員及び事務局職員の紹介

委員の任期満了に伴い、中西会長及び中村職務代理者選出

中西会長の議事進行により事項協議、質疑応答

(進行)

では、「平成 25 年度事業報告」を事務局からお願いします。

(事務局)

説明 (企画管理課、地区センター、映像センター課)

(進行)

次に 富山地区センターの事業概要についてお願いします。

(富山地区センター所長)

平成 24 年 1 月 1 日に設置され、4 月 1 日に雄峰高校の開講とともに事業を開始しました。所管区域は富山市、滑川市及び中新川郡で、県の人口の半分を占めている。

当センターの 3 つの役割としては、1 学習機会の提供では、ふるさと文化探究講座、共学講座等を実施

し、どの講座も満足度が高かった。2 交流・発表・活動の支援では、富山地区センターの学遊祭を、雄峰高校学園祭と共催し、来場者は 500 名を超えた。3 学習情報の提供・学習相談では、地区センターだよりや各種行事チラシを地元愛宕地区へ配布した。また、ホームページを随時更新し、最新の情報の提供を行っている。

(進行)

次に、各地区の運営会議の審議状況をお願いします。

(委員)

新川地区センター運営会議より、

共学講座では、社会人の受講者より、「高校生の挨拶がよくなった」「パワーをもらった」などの評価が高かった。また、講師の方からは、社会人と高校生がお互いにより影響を与えており、それが、さらに講師へのよい影響にもつながっているとのことであった。課題としては、学習意欲の温度差や学習マナーなどがあげられた。

ふるさと発見講座では、町歩きはふるさとを知るよい機会となっている。夏休みの教室では、親子だけではなかなか体験できない講座だとか、親子のふれあいの大切を感じたなどと好評であった。概ね目標が達成された。人間探究コースでは、大変好評で定員に達した。ただ受講者が前期は女性が 75%、後期は男性が 75%と偏りがあった。

教養講座では、各地区で開催したことで、地元の参加が多かった。また、申込数は定員を超えているが、リピーターが多い。新たな受講者を増やすために、4 回の地区センターだより発行、市町村広報に掲載、報道機関へ連絡を行った。特に夏休み親子教室のチラシの管内学校への配布は効果があった。

キャンパスフェスティバルの広報として、地元のケーブルテレビやインターネット、スマートフォンの有効利用を考えていきたい。

(委員)

富山地区センター運営会議より、

地区センターの事業について十分に知られていないようで、より広報する必要があるのではないかと。講座の現地研修では、ウィークデイだったため、仕事を持っていると参加しづらいこともあり、相手方の事情もあるが、曜日・日程の工夫をしてもらいたい。

学遊祭では、PR が必要であることや映像の双方向の発信などがあげられた。生涯学習において、若年層に適応したプログラムづくりや学習者が地域へ発信、新しい時代に対応した内容を企画するなど、チャレンジする講座もあってよいのではないかと意見があった。

(委員)

高岡地区センター運営会議より、

ウイングウイング祭を高岡市の生涯学習センター、市立図書館と共催で 3 日間行った。富山大学の犬熊教授に講演していただき、200 名の受講者があった。

協議の中では、自遊塾で単位の取得率が低いものがあり、調べてみると講座名と講義の内容の差や実施日程や時間に原因があった。また、もっと単位取得基準を緩くできないか。単位認定を 5 単位刻みでなく、1 単位、2 単位でできないものかという意見もあった。

ふるさと発見講座に男性の参加が多く、理由として、歴史や科学の講座が多かったことがあげられた。体操や体を動かす講座は、女性の参加が多かった。若年層の参加を促すために、アンケートをとり、そ

それを反映させることや、生涯学習団体から若年層に勧誘し、実施時間を調整することや魅力あるタイトルを付けることなどの意見があった。氷見市や射水市で実施することで参加しやすい環境をつくれるのではないかと。教養講座の現地研修では、交通手段を工夫できないかなど意見があった。

(委員)

砺波地区センター運営会議より、

小矢部、南砺、砺波3市のほぼ中心にあるので参加者は集まりやすく、高岡市の福岡地区の参加もあり、生涯学習校としての雰囲気がよい。

ふるさと発見講座は人気があり、ふるさとのよさを認識できた。さらに新幹線の開業によって金沢へ行くことが考えられるが、金沢にない砺波地区の文化に自信をもって、取り組んではどうかという、前向きな意見が多かった。

アンケートから講師や講義内容のユニークさが好評であった。共学講座では、社会人と生徒がお互いのよさを認め受講していた。平均年齢65歳前後がとても元気で、生徒がもっと元気を出すべきでないかという意見もあった。

キャンパスフェスティバルでは、地域が一体となって実施され、地域のカレッジが定着していることが伺えた。

映像センターで棟方志功を取り上げたもらい、スタッフにはよい刺激となった。

テレビ会議システムによる高志の国文学入門講座の実施で、各地区センターからの反応があり、双方向で活動ができて有効であった。さらにテレビ会議システムの活用を期待したい。

(事務局)

委員より説明を求められた地域eパスポート研究協議会の「出番づくり」の取組について、説明をお願いします。

(事務局)

「出番づくり」は、これまで学んできたことを次に伝えて行く、さらに県民教授として活躍するなど、次のステップとして有効な取組みである。まだ実験的なプロジェクトではあるが、インターネットだけでなく、口コミや地域での話の中で、県民カレッジで勉強したことなど伝われば、県民カレッジの評価も高くなる。自分で調べたことや勉強したことを発表する際、ネットやYou Tubeの活用など、県民カレッジがサポートできるのでないか。

(進行)

次に協議事項の説明に移ります。「平成26年度事業計画について」説明をお願いします。

(事務局)

説明(企画管理課、映像センター課、地区センター)

(進行)

それでは、これまでの説明を踏まえ、意見交換を行いたいと思います。

(委員)

自遊塾の数が増えているが、質はどんなものなのか。

(事務局)

コーチングやコミュニケーションなど、自己啓発の講座が増えている。また、のれん分けとして講師が後継者を育成し、その方が講師になる場合や、「出番づくり」から1名、新たに務めるものが出てきてい

る。特に新規の講師の選考は、事前に書類審査や電話での確認、面談を行い、慎重に進めている。

(委員)

雷鳥会のボランティア活動を中心に活動している。年間5回会報を発行し、各地区センターの活動を知らせている。また、お互いにボランティアをしている者同士による「トーク&トーク」では、会員の中で活躍している人の話を聞く活動を行い、好評を博している。「21世紀講座」では、年間3回実施し、2年継続のものがある。雷鳥会の会員が、実際に各地区センターの講座を受講し、体験してよさを会報で披露している。

今年は雷鳥会が40周年を迎えます。皆様方にご支援をいただきますようお願いいたします。

(委員)

県民教授の皆さんは、意欲的に自遊塾の講座を運営し、受講者と積極的に双方向の交流を行っている。自遊塾の活動が、富山県内全域で行われていることから、地域間交流のシステムを構築してはどうか。

新幹線の開業に関して、県民全体に士気があがらないので、県民カレッジの力で「ふるさと」を、県外の人に発信できるような、学んだことを実際に生かしていける風土づくりをしていただきたい。

(委員)

企業の立場からお話させていただくと、定年は確実にあがっていき、いずれ70才の時がやってくる。県民カレッジには、受講者自身が企業で身に付けたキャリアなどから書いた生涯学習に関する診断書を基に、どの分野の講座が適しているのかを示すような仕掛けを考えていただきたい。企業の中だけでは、人間関係がつかれない。ホームページやデータベースも大切であるが、人と人とのふれあいが最も大切である。コミュニケーション能力を育てることも県民カレッジの役目ではないか。

新幹線の開業により、東京からのカルチャーセンターが確実にやってくる。県民カレッジは、それとの差別化やサテライト講座の開設が必要になってくると考える。

(委員)

はつらつ学びのリーダー育成セミナーやボランティア活動に携わっている。年配者はインターネットが苦手で、受講者の増加には、口コミなど人々とのかかわりが最も効果がある。この方法で県民カレッジの事業内容をPRしたい。

(委員)

公民館の立場で生涯学習について、いくつか共通点がある。(1)講座受講型、知識や教養を求め、サロン型、サークル型、ワークショップ型などのコミュニケーションニーズで、講座を運営するものが出てきた。ニーズの変化が見られる。(2)テーマで学ぶものからエリアで学ぶものへと移行している。(3)ふるさと教育が県民運動になってきている。その中に団塊の世代の男性が再雇用の第2の就職から第2の人生へ本格的に活動し、「富山学」、「ふるさと学」に取り組んでいる。県民カレッジも4地区センターや市町村、近隣地区など、エリアレベルを調整しながら生涯学習を進めていくことが必要ではないか。また、生涯学習の「富山学」そのものが、観光資源になるのではないか。

(委員)

講座を企画するとき、人を集めることが大変である。県民カレッジの連携講座になることで、婦人会の会員だけでなく、一般の方の受講者も多くなり、大変ありがたかった。連携講座はいつでも申請することができて都合がよいが、最低5単位を取得できるように5時間の講座を設定することに苦労するので、3単位からならば組みやすいのだが、そうはならないのか。また、自遊塾で学んだことを披露してもらうこ

とが大変好評である。年々充実したものになってきている。

(委員)

県民カレッジが各地区センターを含め、大変多くの講座を実施している。また、高校生と一緒に学ぶ共学のスタイルは大切である。それが、高校生のためにもなっていることを数値化できないものか。教育的に言えないか。

生涯学習に関して、市町村では公民館の役割は大きい。例えば、健康づくりを進めることは、生涯学習に結びついている。そのためには地域コミュニティーをいかにしっかりしていくかが重要である。様々な学びは大切である。その中でも家庭学習の大切さを浸透させるために、子育てサークルでのつながりができればと考えている。

(生涯学習文化財室 広瀬社会教育主事)

各委員におかれましては、県民カレッジについて様々な視点からご意見を頂きありがとうございました。県民カレッジは、富山地区センターの開所により4地区の生涯学習の拠点が整備されたことで、本部と地区センターが連携し、さらに県民のニーズに応えられるように事業を進めていきたいと考えています。本日頂いた委員の方からのご意見を今後の施策に参考にさせていただきたいと思います。長時間に渡ってご協議いただきありがとうございました。

以上閉会。